令和８年度第１回取手市部活動地域移行推進協議会　議事録要旨

日時　令和８年７月17日(金)　午後１時30分～午後３時30分
場所　藤代庁舎３階　301号室
出席　【協議会委員】
八重樫通委員長他11名
【取手市教育委員会】
教育長　石塚康英他４名

〇報告・議事

（１）令和７年度から令和８年度の取手市の取組について（資料P1～7）

【事務局】

・昨年、市の広報紙に部活動地域移行についての記事を掲載していただいた。全家庭に配られるもので保護者の関心は高まったと思われる。

・１１月に６つの中学校を訪問して教職員に向けての説明会を開いた。それに合わせて１１月６日と14日に一般の保護者向けに自由参加で説明会を行った。６日は１０７名、１４日は５７名の熱心な保護者の方が参加していただき、様々な質問に対して答えることができたのでよかったと思う。

・３月には当時の１，２年生、職員、参加を希望した保護者に説明会を実施した。生徒たちも前向きな質問をしてくれる生徒がたくさんいて、各学校の良さが出ていて、地域クラブに対する意識が高いことが伝わってきてよかった。

・４月には各中学校の生徒、約２０００名に対し地域クラブ活動の入会案内と申込書を一つ一つ袋詰めにして各中学校に配ってもらった。これが大きかったようでメールで案内するよりも封筒に入ったものが直接手元に届くというのが保護者には印象が良かったのではないかと思う。

・部活動も４月１１日から５月の２４日までを体験期間として自由参加で実施した。指導員の方には通常の勤務としてやっていただき、生徒たちには参加費はとらないで自由に行った。

・６月６日から正式に会費が発生する地域クラブとしてスタートした。

・７月１１日には取手市地域クラブ活動推進協会総会実施し、保護者の方が４２名、委任状が２５１名いただき、会則であったり集金であったりその他もろもろの承認をいただいた。

・部活動加入調査では地域部活動として活動している部活動の部員数は、１０３４名で７月１１日の時点で７６７名の生徒が地域クラブに加入してくれたので率いうと７４，２パーセントの加入率になると思う。クラブの中には平日だけという生徒もいる。ここが今後の課題でもあると考える。指導員の方とも話すが加入しない事情がいろいろあるが加入率を上げていきたいと思っている。３年生については総体が終わって県大会がこれからあるが大会が終わったら退会させてほしいという連絡もある。指導員も現時点で８３名の登録をいただいている。地域の方や保護者の方にも多く加入してもらっている。試算では指導者５０名、生徒２００名の予定であったが大幅に超える加入があった。指導員も種目によって人数の偏りがある。１クラブ１人で見ているとこもあれば複数、多いところは５，６人のところもあるので、その辺の人数調整も今後の課題であると考える。ここまでで質問とかあればお願いします。

【委員長】
・表記の確認だが地域クラブとして活動している部活動の部員数とは、単なる部活動との違いをもう一度説明してもらいたい。→
【事務局】
・例えば取手一中でいうとサッカーやバスケットボールは地域クラブではなく学校体育施設利用団体で夜間にやっている団体と同じ扱いなので同好会扱いで、校長先生が認めればできるのでそのような形でやっている。会費は発生しないし、指導者も教職員が多いということだが何かあった時に大変なことになるので地域クラブにした方がよいということは伝えているが地域クラブの縛りがなく自由にやりたいということで地域クラブ化していない部活動がある。
【委員長】
・地域クラブにしなかったクラブを除いているということですね。回答として。独自にやっている部活動を除くと１０３４名ということですね。ちなみに認定地域クラブが今年度始まって認定されたクラブは国から補助金がでる。中体連は基本的に大会の参加を認めることになっているが地域クラブになっていない学校体育施設利用団体は認定されているのか。→
【事務局】
・認定していない。
【委員長】
・ここが非常に難しい問題でもある。もう一つあるが、推進協会の会則を見ると会議が総会のみとなっているがこの協会の決定事項は総会のみが決定すると考えていいのか。実際の運用は総会だけでは難しいのでは。
【事務局】
・会則には委員会とか連絡会と書いてある。会則についてはこれから改善していく。
【委員】
・指導者名簿のことだが、これを見ると地域の方や保護者もいるが兼職兼業の方がやりたいと言ってくれているので人数がかせげていいところもあると思うが、働き方改革の件もあるので今後の話でどれだけ地域の人を指導者にできるのかをどのように考えているのか。
【事務局】
・兼職兼業の方が４０名ぐらい、地域の方が３０名ぐらいでバランスとしてはいいと思っている。市内の中学校の職員は１４０名ぐらいで、そのうちの４０名なので１４０名は土日の部活から解放されているので兼職兼業頼みというふうには考えていない。将来的には教職員が離れることはいいとは思うが実際に運用しているのは学校の施設を使っているので、まったく教職員がいないクラブには負担をかけている。指導者が教職員でないとバトミントンクラブや二中のバスケットボールクラブはまったく教職員がかかわっていないので体育館の施錠であったり、他のクラブの体育館使用の調整などがよくできなかったりするが、よくやってくれている。そういったこと考えると地域の方と半々の方がうまくやっていくことができるのではないかと考える。事務局として１００パーセント地域の方とは考えていない。
【教育長】
・アドバイザーとしてですが教育委員会としてお話をさせていただくと、もっと地域の方が増えてほしいと思っている。地域展開のクラブ活動に限らず全体で子供を育てていこうという動きを少子化時代には必要だと思っている。しかし保護者に事前にアンケート調査をしたときに、地域クラブ活動で何が不安かを聞いたところ、初めの段階から地域の指導者の割合を多くすると地域

の保護者の不安が大きいという意見がよせられている。そうであるなら初めは地域の方と先生方でともにクラブを運営していき、徐々にその割合が地域の方になっていった方がいいというのが委員会としての考えである。

【事務局】

・２ページから４ページになるが、先日行われた総合体育大会の各クラブの結果の様子を掲載した。今度の週末から県総体が始まる。地域クラブは勝つことだけが目的ではなく、技術の向上ということも目標の一つであるができるだけいい成績を収めてほしいと思っている。

・地域クラブの他にスクール活動というものを行っている。参加は自由で参加費はかからない。ただし、部活アプリと保険料はかかるというものである。先日の地域展開協議会の中でも出ていたが学校単独でやりたいという考えがあるがそれを変えていかなければいけないという話があった。そういったことを少しでも改善するための一つの方法として陸上とサッカーとバスケットボールをスクール活動として行っている。

【委員】

・自分もこの活動に関わらせていただいているが、いわゆる拠点校型というもので進んでいくのかという中で拠点校だと遠いから行けないとか送迎の問題とかこれから出てくるかと思う。そういった中で本来は地域として補いたかった。ただ取手の場合は先生方の御協力で拠点校もしくは単独でクラブができるという状況であるが、その中でもいろんな中学生が集まってできる環境、今後に向けた環境作りということでご協力させていただいている。無料ということもあるが４校が集まってバスケットをやったがこのようなスクールを望んでいる生徒もいるということを実際に感じた。サッカーも同じであった。教育長も言っていたが保護者も実際に先生がいるということで安心しているということも感じた。今後先生がいなくなったときに拠点校ではできない。単独ではできないとなった時に、この活動が継続してできていればより安心できる活動になると考えている。この活動はテストケースとして考えていただけるとよいと思っている。

【委員】

・見ていて学校をこえた子供たちの交流があるので、いい機会なのかなと思っているところである。一方でこれから自分もどういった形で関われるかということだが、ある程度取手市で集まるのであればそれなりの規模間をもっていないと人数がそろわないと練習ができないということもあり、取手市全体ならもう少しボリューム感、人数の確保など考えたものしてもらいたいのでそのあたりで何か関われるものがあればと思っている。

【委員長】

・スクール活動を運営しているのはどこになるのか。

【事務局】

・推進協会になります。

【委員長】

・でも地域クラブではない。

【事務局】

・はい、自由参加なので

【委員長】

・その費用はどうなるのか。

【事務局】

・地域クラブではない生徒にも声をかけただ参加はなく、実際は地域クラブの生徒だけなので、今

後は地域クラブに参加している生徒だけに参加する形で保険もアプリも使えるのでそのような形で実施していこうと思っている。指導者の謝金は推進協会から支払っているところである。
【委員】
・地域クラブに参加している子供たちは、どういう子たちが参加できるのか。
【事務局】
・通常土日のどちらかは地域クラブで、やっているが、それ以外にスクールをやるという声をかけてそこに参加したいという人は来てくださいということでやっている。
【委員】
・地域クラブもあるがスクールもあるということか。地域クラブだけではなく案内されているということですね。地域クラブとは違うメリットがあるということですね。
【事務局】
・地域クラブと言いながら実際には学校主体になっているのが現状である。地域展開の最終的な目標は地域主体としてやることなのでサッカー・バスケットは団体競技であることから将来的に単独ではできなくなることが予想される。そういったときにスムーズに野球のように一つのクラブとしてできればと思っている。スクールと入っているが将来的にはこれが母体になればいいと思っている。
【委員長】
・名称がスクール活動となっているので、一般の人から見たら学校単位で活動しているように感じる。今の話から考えると学校の垣根を越えた地域活動の基盤を作りたいということですね。そうならスクールという名称がマッチしていないように感じる。その費用は全部協会から出しているんですね。今後につなげようとしていることがわかりますが、これは特色的な活動であると思うが意味があるものにできればいいと思う。
・将来平日の活動を考えた場合、次の学習指導要領では部活は残る予定ですが、その次の指導要領では外れる可能性がある。そうなると平日のクラブ活動も見据えていかなくてはならない。その時に実際通えるのかという問題が必ず起こってくるので、学校単位で行い、集まれるときは集まって活動するという考え方も必要ではないかと思う。平日も視野に入れて考えていくことも大事だと考える。
【委員】
・スクール活動で今後を見据えていくという考え方は賛成である。野球では地域性を考えて２チームに分かれて、早い段階で活動できたことはよいと思っている。野球に関してはスムーズに拠点校ということで移行できたと思う。中体連では専門部ごとに特徴があって監督にこだわりたいという意見もあったようである。取手市は早い段階で分かれて活動できたのがよかったのではないかと考える。スクール活動をやることで早い段階で移行できればよりスムーズに今後移行できると思う。
【事務局】
・取手市のスポーツ団体の連携ということで柔道なんですが市内では取手一中と藤代中に柔道部があるが、その部員のほとんどが市内に２つの柔道クラブに所属しているので、そちらのほうにお願いしている。そして試合も学校単位で出ていいということなので、ある意味グッドモデルといえるケースだと思う。
・地域や高校と連携した活動では、昨年「あーと屋図工室」さんや取手松陽高校美術科と連携しワークショップを行った。今年度は１０月にワークショップをやる予定である。また、聖徳高校に小川先生という方がいて陸上のスクールに協力していただいているが、今度聖徳ナイターという陸上の

競技会を行うというのでホームアンドスクールで案内を配信させていただいた。また、美術も「あーと屋図工室」の浅野さんも「Danbo Junbo Sky」というワークショップを行うので同じく配信させていただいた。 先日の県の会議でも話があったが今の部活動を地域に展開するだけで手いっぱいだと思うが市町村の特徴を生かして新しい選択肢を作っていただきたいと言われたところであったのでこの活動についてもよかったのではないかと思う。

【委員】

・この活動を３年ぐらい前から手伝っているが、陸上だけでなく地域を巻き込んだものになってきているので取手市内でいろいろとできてくるのはいいと思う。

【事務局】

・先日の総会でもう一度、「取手市地域クラブ活動」の運営団体・実施主体について説明をさせていただいた。本来であれば推進協議会に総会のこともかけて承認をいただいてから役員なども決めていかないといけないところだが、昨年度からもあったように通帳を作るにしても会長が決まっていないと作れない。会則・要綱がないと任意団体としてスタートできないので事務局・スポーツ振興課のほうで、お願いして役員を決めさせていただいたということを先日の総会で説明し、承認をいただいたというところである。

【委員】

・スクール活動の件でわからないところがある。将来のあるべき姿というのはそういうところにもっていきたいというということなのかということが１点で柔道についてもこれも一つの形、聖徳さんと一緒になっているのでいろんなパターンが出てきて整理がつかないんだが、いろいろ試していこうとしているんだろうが事務局としての考えはどうなのか。

【事務局】

・現実問題として中学校の部活動を基準にして、それを地域に展開していくというのが取手市としては一番いい方法だと思い進めてきた。ただ学校と生徒数が減っていくという現状があるので将来的には野球のように市で２つぐらいで、拠点校方式でやっていくのが目指すところになると考える。その手立てとしてスクールという言い方はよくなかったかもしれないが学校の垣根を越えて子供たちが一緒に活動できる場をつくるというのがスクール活動と考える。地域クラブの一つの目的として小中高の連携というものがあるのでそれを進めるためにも聖徳高校や松陽高校と連携したり、まだ連携できていないが小学生が参加できる何かができたりすればいいと思っている。本筋は今始まった地域クラブの運営だが、それ以外にスクール活動であったり高校との連携であったりするのでそれも進めていかなくてはいけないと思っている。

【委員】

・クラブが認定されるか、されないかは昨年もこの会議で議題になったと思うが、例えば柔道は認定クラブなのかというのが１点と今後民間がやるとなった時の認定要綱は作成されてているのか。そしてそれがいつ頃決まっていくのか。わかれば教えていただきたい。

【委員長】

・さきほど柔道については大会参加は学校の方で出ているというので少年団で出ているわけではないという説明はあったが認定クラブ条件についてどうか。

【事務局】

・先日の協議会にも話があったが認定に関するトラブルがあったそうで、認定したクラブに他市町村の生徒が入っていたが、市が認定するクラブはその市の生徒だけだということで、その生徒は試合に出られなかったという問題があったそうである。中体連には生徒一人一人がお金を払ってい

る。中体連に登録してお金を払っているのに中体連の大会に出られないのはどういうことなのかという訴えがあったそうだ。
【委員長】
・結論を言うと認定要件は非常に曖昧だったということははっきりしている。〇〇市は３月末に認定要件を公表して認定している。ただ、個人から見ると国が出している認定要件から見たら、認定できないような曖昧なところがたくさんあった。おそらく認定すべき教育委員会側もそこまで深く勉強する時間がなかった。３月時点で５０以上の認定クラブがあったが、厳密な審査が必要だが短い時間ですべてのクラブの認定条件を精査することはできなかったのではないかと考える。昨年度までとはまた違うので〇〇市の認定条件とマッチするかということまでは精査できなかったと思う。去年までは普通に他市町村の生徒も入って参加していたという背景があったので混乱してしまったようである。
【事務局】
・認定要件というのは県からも要綱を作ったほうがよい市町村とそうではないところもあると思うが民間に委託しているような市町村は認定制度がないと、民間のクラブと地域展開でクラブ化しているクラブが混在しているのでそれをすみわけするために認定要件があるのかと思ったんですが。
【委員長】
・和８年度は過度期ということで随時改定をしていくという前提でガイドラインに入っているのでこの１年かけてきちんとしていないところは県や市町村が指導していく。ただ市町村が主体でやっているところは要件はクリアするという文言があるので取手市地域クラブが市が直営しているようなものです。
【事務局】
・認定要件については、まだまだ勉強が必要と思う。中体連の参加基準もそうだが、中体連がリーダーシップをとって総体に関してはやってほしい。中体連とすり合わせをした上で大会の参加について考えていかないと大会に出れないという問題が出てきてしまうのではないかと思う。
【委員長】
・制作側でいえば認定要件を作って認定されなければ国の補助金は使えない。地域クラブも中体連も任意団体に過ぎないので協力して解決していくしかない。取手市は認定要件は作らないといけないと思う。
【委員】
・地域クラブがうまく進行できるように協力していこうと思うが、細かいことを言うと兼職兼業で職員だといいんだが吹奏楽部では学校内の施錠をどうするのかとかカギを指導者に任せていいのかとか細かいところを解決していって今があると思う。認定の部分も参加できるとかできないとか地域によっていろいろあるが取手は取手で今の状態でいいと思っている。平日の移行ということも意識して行っていかないといけないと思う。
【委員】
・現在吹奏楽クラブ以外では美術部も平日以外は活動していない。校外に出ることもたまにあるが取手駅のアートギャラリーで取美という展示をして文化芸術課とも関わって地域の活性化のために取り組んでいる。東京芸大の方が美術部の活動を見たいということで訪問しに来ている。
【委員長】
・文化部の生徒は土日も活動したいという生徒は少ないようである。しかし、そういう機会があれば単発でもよいのではと思うということですね。

【委員長】
・予算書を見ると任意団体なので団体保険の加入についてはどうなのか。
【事務局】
・保険に関しては使用しているアプリのアスフィールの保険に加入している。団体保険の方で日本レクリェーション協会の保険に加入した。
【委員】
・一覧表で線が引いてあるところがなかなか地域クラブになっていないので、これからさらに少なくなってくるので指導者もいなくなってきているので今後、地域クラブとの連携が必要であると思う。
【委員長】
・取手市民から質問があったので紹介するが、文科系の活動で地域クラブを作りたいという相談があった。それは教育委員会に相談してほしいと伝えた。体育の種目でもあるような種目であったが学校を通して希望をしたが取り上げていただけないという声があったので伝えておきます。今回、ガイドラインが新しい活動の創造と名を打っているので今ある部活動だけでなく違った活動をやりたい子もいるみたいである。
【事務局】
・地域展開担当者会議に行ってきました。土浦市や牛久市は地域クラブを実施するのは１０月からであるというのがわかった。龍ケ崎市は市が直営している部活動は月１０００円、その他のクラブにはばらつきがあようである。利根町は町内１校になるので取手市と連携していきたいということであった。
・新しい選択肢を作ってほしいという話があったが一過性ではだめなのでそれを考えたときにスクール活動や美術のワークショップなど市の特徴としてやっていければと思っている。最後になるが取手市の会員が７００人以上指導者が７０以上といことで担当者会議で取手市は評価されました。
【委員長】
・もう一つ気になるのは夜間開放で使っている個人活動でが教育委員会に責任はないと思われるが当事者がどこまでリスクを理解しているのかわからないので非常に大きなリスクがあることを説明していく必要があるのではないか、一歩間違うと生徒が被害者になってしまうということである。

〇次回協議会予定

・次回は、11 月を予定しています。本日はありがとうございました。

以上